

(記入例)

△△市（町）木造住宅耐震診断報告書

令和 年 月 日

(申請者氏名) 様

耐震診断員

名称

氏名

印

令和 年 月 日あなたのご自宅を耐震診断いたしました。結果は次のとおりです。
 なお、この報告書は調査時点での診断状況ですので、その後の経年劣化に対しては
 別途診断が必要となります。

I 個別所見

①建物（上部構造）の耐震診断

上部構造評点	判 定	評 点 (○印)	判 定 (○印)
0.59		1.5以上	倒壊しない
		1.0～1.5未満	一応倒壊しない
		0.7～1.0未満	倒壊する可能性がある
	0.7未満	倒壊する可能性が高い	

②地盤・地形・基礎の耐震評価

【地盤】

地盤	対策	記入欄 (○印)	注意事項
よい			地盤が悪いため、地震時に 木造住宅を大きく揺らせる ような揺れ方をする可 能性があります。
普通			
悪い (埋立地、盛土、 軟弱地盤)	表層の地盤改良を行っている	○	
	杭基礎である		
	特別な対策を行っていない		

【地形】

地形	対策	記入欄 (○印)	注意事項
平坦・普通			石積み擁壁がはらんでい るので、修復しないと地震 時に地滑りをおこす可 能性が高い。
がけ地・急斜面	コンクリート擁壁	○	
	石積み		
	特別な対策を行っていない		

【基礎】

種類	対策	記入欄 (○印)	注意事項
鉄筋コンクリート基礎	健全		ひび割れが生じているので、内部の鉄筋が錆びて、コンクリートを壊す可能性があります。補修が必要です。
	ひびわれが生じている	○	
無筋コンクリート基礎	健全		
	ひびわれが生じている		
玉石基礎	足固めあり		
	足固めなし		
その他 (ブロック基礎等)			

II 総合所見

①建物の現状
<p>当該住宅は築後15年経過した、軸組工法で建てられ耐力壁で地震に抵抗する木造2階建て専用住宅です。</p> <p>劣化状況に関しては、縦樋の欠損、浴室タイル貼りの亀裂などが見受けられますが、その他に関しては特に劣化は認められず、割と良好な管理状態と言えます。</p> <p>敷地は傾斜地にあるため、盛土で石積み擁壁が設けられています。</p>
②耐震性の有無とその程度
<p>敷地に関しては、地盤が軟弱で、また、石積み擁壁もはらんでおり、地震時には大きく揺れたり、地滑りする可能性が高く、建物に影響が出ると考えられます。</p> <p>基礎は、鉄筋コンクリートですが、ひび割れ等があるため、修復が必要です。</p> <p>壁に関しては、2階でY方向以外は壁量が不足しており、耐震性に問題があります。</p>
③今回の診断では評価できない事項等
<p>今回は設計図書もなく、目視調査で筋交いも確認できなかったため、筋交いがある場合は、耐震性は小さく評価されています。</p>
④まとめ
<p>当該住宅に関しては、1階X方向に耐震性がないと判定されていますが、筋交いの有無に関して再度調査し筋交いが確認出来た場合は、再度、診断を実施され、最終的な耐震性の有無を確認後、改修工事を検討されることをお勧めします。</p> <p>改修が必要な場合でも、1階のX方向に一部壁を増設するか、既存の壁を補強するなどの簡易な工事で耐震性が確保できると思われれます。</p>

※今回は「一般診断法」と呼ばれる方法で耐震診断を行いました。一般診断法とは、建物の目視調査で行うため、不明な点も多いことから、改修を実施するに当たっては、より詳細な「精密診断法」で再度耐震診断を実施されることをお勧めします。